

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑 1		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢 652-13		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり、250種1万本の桜の木が咲く「さくらの里」「北の小京都」とも称されています。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり、地元民、施設入居者様も和みの桜風景を眺められます。又、隣接している松前温泉保養センターは歴史のある温泉として、温泉が楽しめます。施設では、松前公園へのお花見やドライブ、町内のお祭り、季節ごとのイベントを企画し、畑作業を入居者様と一緒にを行い、収穫した野菜も食材にとり入れ、入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるよう、お手伝いをしながら「自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす」を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松前中心街から少し手前の幹線道路より山側へと向かう自然豊かな場所に位置する2ユニットの事業所である。隣には江戸時代建築の風情もある松前温泉休養センターがあり、運営推進会議開催場所として、また利用者も買い物や外食に訪れることができるなどの協力が得られており、開設時より地域との協力関係を良好に保ちながら運営を行っている。感染症の流行により例年実施している地域との交流や外出・外食の取り組みは難しい中にはあるが、利用者のメンタルヘルスを重んじた数々の支援に尽力している。利用者に人気の事業所納涼祭は夏のお楽しみ会として規模を縮小しつつ実施し、季節の良い時期には馴染みの松前公園に出かけ五感刺激の機会作りや日用品類の調達の目的も兼ねて利用者の自宅へ一緒に行き本人が懐かしみ満たされる思いの充足などにも努めている。食事面では町民からの新鮮な地産食材のお裾分けや利用者が好物とする料理が食卓に並び箸が進むように膳を整え、季節の行事食も豊かに提供されている。運営推進会議は多様な知見者の協力の元にメンバー構成がなされ率直な意見交換により事業所の質の向上に資している。本人が安心できる統一した関わり方を工夫することにより安らぎのある生活が再構築されるなど、ケアマネジメントによる支援の効果が見られており、家族からも感謝が伝えられている。「自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす」の理念が体现されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関。事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5項目を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し確認してケアの実践に活かしている。	法人基本理念を根幹とした事業所独自理念を標榜し、合わせて職員の心得を定め、これらを事業所内要所へ掲示している。新任職員への周知や申し送り時に理念等が支援と結びついているかを確認する機会を持ち、支援の根拠として意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加、ホームの納涼祭には地域の方々にも参加して頂いている。婦人会や友人の来訪もあり、体操や踊り、歌など、楽しく交流している。花の苗、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりし、日常的に交流している。	例年実施している地域との数々の交流は感染症の流行により自粛や中止となっているが、地域住民から新鮮な地産食材のお裾分けを得たり、美化運動に協力するなどして地域との関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、慰問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。(本年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、中止している)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	会議は感染症の緩和時期を見計らい参集にて開催し、推進委員の多様な構成や議題の工夫もある。委員より身体拘束内部研修にてロールプレイ活用の提案が上がり、実践に至るなど事業所の質の向上に資している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の保健福祉課とは諸書の届け出やワクチン摂取、介護保険制度改定での質問や意見を仰ぐなど協働関係を築き、適正な運営に取り組んでいる。病院・地域ケア会議に出席し地域ぐるみでの町民福祉向上に向け連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。身体拘束廃止に向けての適正化委員会を年4回以上行い、又、職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加をし、周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時まででは玄関の施錠をしている。	「身体拘束適正化検討委員会その他施設内の組織に関する事項」を指針に定めている。委員会は年間計画のもとに開催し、適否を確認する場に留まらず職員へアンケートを実施して適正化への意識や理解促進に向けている。これらに関する年2回の内部研修では、より良いケア・生活の質の向上を目指す中で、適正となることを指導している。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束、虐待防止研修会の参加、施設内部研修会を行っている。事業所内、職員アンケートを行う。虐待がおきないように注意し職員側のストレスを軽減できるよう話合いの場を設けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会や、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。(研修がある時は研修参加をする)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気作りをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。年4回、通信だよりを家族に郵送している。	感染対策上、利用者からの買い物の希望は主に職員が代行し、飲食の希望にはその都度対応している。家族へは電話以外に家族通信や運営推進会議議事録にて情報発信し、家族の意向にも適宜対応している。希望する家族へ生活の動画や写真を送信している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイデアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。	月1回職員会議を開催し、運営や支援について意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。仕事内容やシフトの希望、業務備品など要望やアイデアを運営に活かしている。年1回施設長が個人面談を実施し働く意欲の向上や労働環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。また町内の研修参加も行っている。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、外部の研修はオンラインでの研修などを取り入れたり、施設内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は作っていないが、町内行事時の参加活動で交流、研修会の協力をしサービスの質を向上させていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活できるようにしています。又、町内の行事参加をした際に、地元民と交流されたりします。法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出や面会を中止する場合もある。)	現在の家族面会は利用者への届け物があった場合などに窓越しでの対応やオンラインにてサポートしている。利用者が馴染みの景色や町並みに触れ、癒しや喜びにつながるよう緩和時期に町内ドライブや自宅へ生活用品類を取りがてら懐かしめるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しない様に、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請の事や施設、入院中の相談や生活保護の件、他など。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、ぬりえや毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し困難な場合は、家族から情報を得ながら支援に努めている。	職員は利用者への話しかけを多くして何気ない会話から本意を引き出したり、表情などから意向の把握に努め家族からも情報を得ている。利用者本人がどうかという視点に立ち、職員全員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状を把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高め現状にあった介護計画になるように取り組んでいる。	アセスメントは介護計画策定ごとに更新している。本人の状態像や生活スキルを見極め、課題に対する援助方針や本人のしたい暮らしを支える計画を家族の意向や医療関係者の助言等を反映させ策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の生活シート、実施モニタリングを記録し、職員間で日々、情報交換、共有し、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物支援・受診介助、外出の送迎等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入所者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助をし、結果は家族に報告している。	利用開始前からの馴染みの医療機関による訪問診療を受けており、歯科医療は必要時に受けられる態勢を整えている。他科受診は家族の協力も得られており、家族同行の場合は本人の状態を伝達し適切な受診につなげている。医療内容は通院記録に記している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある介護職員はいないが、職員同士、日々の様子を観察して情報を共有し、協力医療機関の看護師から、医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や体調変化時は病院側へ連絡をし連携を計っている。また、入院時は情報提供書を施設から提供をし情報提供している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為は必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携をとりながら取り組んでいる。	グループホームにおける重度化対応に関する指針と看取り介護についての同意書を定め、利用契約時に家族へ説明し同意を得ている。対応に当たっては医師の判断に基づき関係者間で話し合いを重ね今後の方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応できるようにしている。救命救急、ADEの講習を受けている、職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足ししている。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており又、町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制は出来ている。	令和3年6月と10月に消防署の協力を得て夜間想定地震・火災避難訓練を実施し、令和4年2月に大雨・土砂崩れの自然災害を想定し対策を検討する図上訓練を行った。災害に応じた避難場所を取り決め家族にも周知している。災害に備えた備蓄品を確保している。	役場・消防・運営推進会議の協力を得て、令和6年4年から義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンが備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。脱衣場に音楽を流し、リラクセスできるようにしている。	馴れ合いの中で利用者の尊厳が失われることのないよう「職員の心得」の意識づけや職員アンケートにより個々の振り返りにつなげている。事業所全体での取り組みを進め人権意識を高めている。個人情報記録類の保管場所を取り決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分りやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は装えるようにしている。外出支援をし洋品店で衣類を選んで購入したり、白髪染めを施設で行っています。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司や赤飯など本人の希望をとっている。利用者の好みの物を提供したり、また行事食や、昔ながらの料理をとり入れ、季節感や懐かしく思い楽しんでもらうようにしている。利用者は茶碗拭きや食材の準備などを行っている。	地産や旬の食材を活かし利用者が懐かしむ献立を豊富に提供し食が進むように工夫している。現在、外食が難しい中にあるが、出前や季節の行事食、誕生日等では特別メニューの食卓にして喜んでもらっている。利用者は食事一連の作業に可能なところで参加し持っている力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。野菜不足になりがちな為、週2回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操をとり入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者一人ひとりに合わせた支援をしている。	排泄チェック表と生活シートに排泄状況を記録し、状態像を把握している。利用者個々に表出するサインを掴みトイレでの排泄を誘導している。夜間帯も利用者が安心安楽に排泄ができるよう一人ひとりに応じた介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良い物を提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴を行っている。入浴剤も変える事で色や香りを楽しんでリフレッシュして頂きます。脱衣場には音楽を流してリラックスをし気分よく入浴時間を過ごすようにしております。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番は変更します。入浴出来ない時は翌日入浴できるようにしている。	1人最低週2回支援し、入浴を億劫がる利用者へは無理強いせず時間や曜日をずらし、他ユニットの浴室も利用するなどして気分転換も図りつつ対応している。利用者の希望する職員の対応や同性介助、車椅子の利用者は職員2名態勢を取り、安心感や負担感へ配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間まで、ホールでテレビ視聴をしたり、趣味活動や団らんをし、ゆったり過ごしていただきます。また、声掛けをし、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認出来るようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録表があり、服薬出来ているか、確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、洗濯たたみ、畑作業、草取り、編み物、ぬりえなど役割として出来る事、得意として出来る事など、一人ひとりが生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換ができる様な支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で、お花見や紅葉、他、ドライブ企画をし外出支援を行っています。又、利用者の希望で買い物支援で外出を行ったり、自宅に衣類などを取りに行ったり、外出した際、家族の家に寄り顔合わせをしています。近隣の散歩をし、温泉保養センターの売店で買い物したり、散歩時、自室に飾りたい花を取ったりし外気に触れるように支援している。	感染症の流行により例年実施してきた様々な外出が困難な状況ではあるが、制限緩和時期や感染対策を講じて最大限の取り組みを行っている。地元名所での花見や紅葉見学、時折自宅へ日用品を取りに向いたり、事業所周辺での散歩や外気浴にて自然豊かな景観を満喫できるようにサポートしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話をして頂いている。訪問時、手紙を預かり、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がない為、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間はベランダの窓とデッキがあり日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったり過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持っていただけるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしている。	共用空間のリビングダイニングは吹き抜けで明るく、玄関もガラス仕様で開放感がある。ユニット其々に設えは違うが、見守りしやすい設計でスタッフルームや浴室ユーティリティにてユニット間の行き来が可能である。ソファコーナーやダイニングスペース、和室上がり段に腰掛けたり好きな場所で寛げる。季節の飾り付けや利用者の作品類を飾り温かみのある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしております。一人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい落ち着く時間をとってもらったり、個々に職員とお話をしたりする事ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から贈られた物、位牌を置いている方、お花、鉢植えなど好きな物を置き、落ち着けるような居室にしております。又、プライバシーの為、居室には暖簾をかけており、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には介護用ベッド・クローゼット・ナースコール・照明・カーテンが備えつけられ、利用者の馴染みの家具や調度品、生活用品類が持ち込まれている。本人の好みの物や家族からのプレゼント品が置かれ、居室の窓からは自然の景色が見渡せ四季の移ろいも感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには、手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。又、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑 2		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢 652-13		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり、250種1万本の桜の木が咲く「さくらの里」「北の小京都」とも称されています。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり、地元民、施設入居者様も和みの桜風景を眺められます。又、隣接している松前温泉保養センターは歴史のある温泉として、温泉が楽しめます。施設では、松前公園へのお花見やドライブ、町内のお祭り、季節ごとのイベントを企画し、畑作業を入居者様と一緒にを行い、収穫した野菜も食材にとり入れ、入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるよう、お手伝いをしながら「自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす」を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関。事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5項目を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し確認してケアの実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加、ホームの納涼祭には地域の方々にも参加して頂いている。婦人会や友人の来訪もあり、体操や踊り、歌など、楽しく交流している。花の苗、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりし、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、慰問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。(本年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、中止している)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。身体拘束廃止に向けての適正化委員会を年4回以上行い、又、職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加をし、周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時までには玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束、虐待防止研修会の参加、施設内研修会を行っている。事業所内、職員アンケートを行う、虐待がおきないように注意し職員側のストレスを軽減できるよう話合いの場を設けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会や、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。(研修がある時は研修参加をする)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気作りをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。年4回、通信だよりを家族に郵送している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。また町内の研修参加も行っている。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、外部の研修はオンラインでの研修などを取り入れたり、施設内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は作っていないが、町内行事時の参加活動で交流、研修会の協力をしサービスの質を向上させていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活できるようにしています。又、町内の行事参加をした際に、地元民と交流されたりします。法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出や面会を中止する場合もある。)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しない様に、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請の事や施設、入院中の相談や生活保護の件、他など。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、ぬりえや毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し困難な場合は、家族から情報を得ながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高め現状にあった介護計画になるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別の生活シート、実施モニタリングを記録し、職員間で日々、情報交換、共有し、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物支援・受診介助、外出の送迎等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入所者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助をし、結果は家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある介護職員はいないが、職員同士、日々の様子を観察して情報を共有し、協力医療機関の看護師から、医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や体調変化時は病院側へ連絡をし連携を計っている。また、入院時は情報提供書を施設から提供をし情報提供している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為は必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携をとりながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応できるようにしている。救命救急、ADEの講習を受けている、職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足ししている。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており又、町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制は出来ている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンが備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。脱衣場に音楽を流し、リラクセスできるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分りやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は装えるようにしている。外出支援をし洋品店で衣類を選んで購入したり、白髪染めを施設で行っています。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司や赤飯など本人の希望をとっている。利用者の好みの物を提供したり、また行事食や、昔ながらの料理をとり入れ、季節感や懐かしく思い楽しんでもらうようにしている。利用者は茶碗拭きや食材の準備などを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。野菜不足になりがちなので、週2回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操をとり入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者一人ひとりに合わせた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良い物を提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴を行っている。入浴剤も変える事で色や香りを楽しんでリフレッシュして頂きます。脱衣場には音楽を流してリラックスをし気分よく入浴時間を過ごすようにしております。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番は変更します。入浴出来ない時は翌日入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間まで、ホールでテレビ視聴をしたり、趣味活動や団らんをし、ゆったり過ごしていただきます。また、声掛けをし、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認出来るようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録表があり、服薬出来ているか、確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、洗濯たたみ、畑作業、草取り、編み物、ぬりえなど役割として出来る事、得意として出来る事など、一人ひとりが生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換ができる様な支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事で、お花見や紅葉、他、ドライブ企画をし外出支援を行っています。又、利用者の希望で買い物支援で外出を行ったり、自宅に衣類などを取りに行ったり、外出した際、家族の家に寄り顔合わせをしています。近隣の散歩をし、温泉保養センターの売店で買い物をしたり、散歩時、自室に飾りたい花を取ったりし外気に触れるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話をして頂いている。訪問時、手紙を預かり、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がない為、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間はベランダの窓とデッキがあり日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったり過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持っていただけるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしております。一人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい落ち着く時間をとってもらったり、個々に職員とお話をしたりする事ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から贈られた物、位牌を置いている方、お花、鉢植えなど好きな物を置き、落ち着けるような居室にしております。又、プライバシーの為、居室には暖簾をかけており、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには、手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。又、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム松前さくら苑

作成日：令和 4年 3月 7日

市町村受理日：令和 4年 3月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事業継続計画(BCP)の策定の義務化にあたり、防災計画だけでは不十分な為、事業継続する為の事前準備をし、BCPの策定が必要となる。	令和6年4月からの義務化となる、自然災害発生時における、事業継続計画(BCP)の策定。	事業継続計画(BCP)の策定への取り組み。作成支援に関する研修、策定する為の基本方針、職員に向けてのBCPの基本的な考え方、策定内容の説明、周知。	18か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。